



## 昨年のできごとから

病院長 長倉 和彦

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、いろいろ出来事の多い一年でした。

特にリオデジャネイロ・オリンピックの期間は、日本中が盛り上がりました。日本選手の活躍が大きな力と勇気を与えてくれました。中でも400mリレーでの銀メダル獲得は、チームワーク、緻密な連携がいかに大切かを教えてくれた、本当に嬉しい驚きでした。リレーのような、日々の努力が実を結ぶ、それが正当に評価される世界が存在することが、本当に素晴らしいと感じました。



一方、東京都知事の不祥事から始まり、騒動の中での選挙、更に新都知事が就任してから、築地市場の移転や、オリンピック会場の件で、にわかに騒がしくなりました。一連の騒動では、報道の行き過ぎや正確さに欠けると思うことがしばしばありました。報道は、中立で正確であることが求められます。読者が興味を持たないようであれば、見てもらえないのも確かですが、常にタイムリーで中立・正確であれば、読者の信頼は得られると思います。報道をショー化にすることは、ずっと以前から行われていますが、興味本位になって、本来の使命を逸脱しては、報道として適切ではありません。



病院で行われている医療の大半は 保険診療であり、色々な法律や規則で決められた枠内で行われます。あくまで、必要な人に必要なだけの医療を行うことが定められているのですが、医療を受ける人が十分にその内容を理解し、得られる結果だけでなく、そのプロセスにも満足することが求められます。診療の内容を知ったうえで納得してもらい、満足する結果を分かりやすく提供するということは、報道機関の役割とも通じるところがあります。ただ、報道機関であれば娯楽性、病院でいえば快適性に偏って、本来の正確で中立な仕事内容をおろそかにするわけにはいきません。医療には、日々の努力、リレーチームのような緻密な連携が常に必要です。必要な医療を行うには、医療者が学び、中立で正確な診療を行うことで可能になります。しかし、社会の求めるレベルに合わせ、結果にもプロセスにも満足してもらえるようになるには、更に大きなエネルギーや互いの努力が必要です。医療を行う者も、普通の人であり、時には自ら患者になることもあります。患者さんやご家族とのお付き合いの中で、皆さんとともに、喜んだり、悩んだり、時にはホッとしたり、とても辛かったりもします。私たちは、病で困っている人々と共にいます。



いつもその人たちの立場に寄り添って、努力を惜しまず手を差し伸べるようにしたいと考えています。当院を利用される皆様には、どうか安心して、何かお困りなのかを職員に伝えていただきたいと思います。皆様の療養がスムーズに行われるよう、皆様と共に職員も努力していることをご理解ください。時には、互いの歩み寄りも必要になるかも知れませんが、もし、私たちの努力が足りないとお気づきのことがありましたら、いつでもお伝えください。ご指摘に対しては真摯に対応いたしますので、よろしくご協力の程おねがいたします。

残念ながら、昨年も大きな災害が各地でありました。被災された皆様には1日も早く元の生活に戻ることができるようお祈りいたします。

